

<取材のお願い>

2024年9月13日

新潟大学

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

アジアの学生が佐渡島で海洋生物の多様性を学ぶ ～新潟大学の学生と共に持続可能な海洋環境の保全に挑む～

新潟大学佐渡自然共生科学センター臨海実験所（新潟県佐渡市）では、9月20日（金）～9月29日（日）、インド、バングラデシュ、ベトナム、マレーシア、中国の5カ国6大学より大学生3名、大学院生9名、教員2名、計14名を招へいし（うち教員2名は自費による招へい）、「豊かな佐渡島の海を通してインド・太平洋の海洋生物多様性を学ぶハイブリッド型フィールド研修」をテーマに科学技術研修プログラムを実施します。

今回来日するのは、自国で水産資源管理や生物多様性に関連する研究活動を行う、あるいは興味や問題意識を持つ学業優秀な学生たちです。

海洋環境の破壊および海洋生物資源の減少は、世界的に重要な課題であり、課題を解決するには、海洋生物多様性や生態、環境に関する専門知識を持つ人材の育成が急務であります。

本プログラムの目的は、先進的な海洋生物学の教育研究を行う同臨海実験所と、多種多様な海岸環境と豊かな海洋生態系を持つ佐渡島の自然を舞台に、海洋生物多様性や海洋生態系に関する知識と海洋環境モニタリング法などの技術を習得し、世界各国の地域特有の海洋環境に応じた、持続可能な保全方法を考える科学的能力を身につけることです。

具体的には海洋生物に関する講義のほか、日本各地から参加する学生と共に、同臨海実験所近くの岩礁海岸でのシュノーケリングなどのフィールドワークを実施します。海洋生物を採集し、採集した海洋生物の分類と観察を通して、海洋環境や生物多様性を理解するための科学的手法を学びます。さらに、発生学の研究材料であるウニを題材に、人工受精と初期発生を観察をします。9月24日の成果発表会では、採集した海洋生物の観察・分類の結果を発表します。

プログラムの後半は新潟市に移動し、同大学五十嵐キャンパスで理学部主催の国際会議「The 5th International Congress on Natural Sciences with Sisterhood Universities」（ICNS2024、国際交流姉妹校による自然科学に関する第5回国際会議）に参加します。研究発表や講演を通して、生物学以外の分野の研究者とも学際的な交流をします。

本プログラムにより、自国とは異なる海洋生態系に関する新たな知識や、解析技術を習得することができます。さらに、日本を含む6カ国の学生が交流することで、人的ネットワークの形成および国際的頭脳循環が期待できます。

本プログラムは、科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。

*「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。 <https://ssp.jst.go.jp/>



つきましては、アジアと日本の学生が海洋生物の採集・観察をする様子、調査船で海洋データを測定する様子、国際会議に参加する様子、成果発表会の様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。なお、実施担当の川坂健人特任助教へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

【実施内容】 ●海洋生物に関する講義 ●海洋生物の採集・観察・分類 ●調査船で海洋データの測定 ●成果発表会 ●意見交換会 ●国際会議「ICNS2024」参加

【実施場所】 新潟大学佐渡自然共生科学センター臨海実験所、同大学五十嵐キャンパス他

【研修日程概要】

9月20日（金）	午後：来日。成田から東京へ移動
9月21日（土）	午前：佐渡へ移動 午後：オリエンテーション、講義（新潟大学臨海実験所）
9月22日（日）	午前：招へい教員による海洋生物に関する講義（コーチン科学技術大学・A.A. Mohamed Hatha 教授）。同臨海実験所近くの岩礁海岸にて、シュノーケリングでの海洋生物の採集・観察 午後：海洋生物に関する講義（大阪公立大学・安房田智司教授）。午前中に採集した海洋生物を実験室で観察・スケッチ・種同定し、海洋生物の多様性について学ぶ。発生学の研究材料であるウニを題材に、人工受精と初期発生を観察。夜は臨海実験所そばの岸壁で灯火採集を行い、実験室で採集した海洋生物を観察（新潟大学臨海実験所）
9月23日（月）	午前：同臨海実験所が所有する調査船アイビス II に乗り、沿岸域で海水の透明度を測定、CTD（塩分・水温・水深計）で海洋データを計測。プランクトン（浮遊生物）と砂泥中のベントス（底生生物）を採集し、顕微鏡で観察・種同定（新潟大学臨海実験所） 午後：招へい教員による海洋生物に関する講義（バングラデシュ農科大学・Md. Shahjahan 教授）。前日に受精させたウニ胚の発生過程を観察。夜は水生生物に関する講義（モナシュ大学マレーシア校・曾我朋子准教授）、ウミホタルの生物発光を観察（新潟大学臨海実験所）
9月24日（火）	午前：これまでに採集した海洋生物をさらに詳しく観察。成果発表会の準備（新潟大学臨海実験所） 午後：個人およびグループでの成果発表会、意見交換会（同上）

9月25日(水)	午前：新潟市に移動。道中、車内から海岸地形を観察(佐渡ジオパーク) 午後：新潟市水族館マリニピア日本海を訪問(新潟市)
9月26日(木)	午前：新潟大学理学部主催の国際会議「ICNS2024」に参加(新潟大学五十嵐キャンパス) 午後：ICNS2024のポスターセッションに参加(同上)
9月27日(金)	午前：ICNS2024の生物学分野の口頭発表セッションに参加(同上) 午後：引き続き口頭発表セッションに参加(同上)。夕方にはICNS2024の懇親会に参加。国内外からの参加者と交流(新潟市歴史博物館みなとぴあ)
9月28日(土)	午前：ICNS2024の生物学分野の口頭発表セッションに参加(新潟大学五十嵐キャンパス) 午後：成田に移動
9月29日(日)	午前：離日

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

新潟大学 佐渡自然共生科学センター 臨海実験所
(担当：川坂)

■国際青少年サイエンス 交流事業(さくらサイエンスプログラム)に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室
https://form2.jst.go.jp/s/kouhou_form (担当：太田)